



2-12

都市公園・自然公園

1972年から1997年まで進められた琵琶湖総合開発事業(以下「琵琶総事業」という。)では、琵琶湖水位の低下による琵琶湖周辺の自然環境が悪化するのを防止するとともに、積極的に新しい湖辺の風景を造り出し、レクリエーションなどの利用の増進を図るため、「都市公園(湖岸緑地)」と「自然公園施設」が整備されました。

1. 都市公園

都市公園については、滋賀県と大津市が事業主体となり、主に大津湖南および彦根長浜などの都市計画区域の湖岸において整備が進められました。これにより、良好な自然風景を保存・活用しつつ、新たな風景を創りだし、休憩、観賞、散策などを楽しめる公園として、琵琶総事業の期間中に、13地区、約156haの整備が完了しました。

その後、2000年(平成12年)に公表した「マザーレイク21計画ー琵琶湖総合保全整備計画ー」の「自然的環境・景観保全」の第1期対策で、在来生物の生息空間として、また、緑と人のふれあえる空間としての湖辺域におけるビオトープネットワークの拠点確保の対策として、新たな湖岸緑地の確保も追加して位置づけられました。

これにより湖岸緑地は、湖辺域の環状緑地ネットワークの整備、推移帯機能の再生を内容とする「湖岸緑地再生整備事業」として、地域の環境条件に見合ったタイプの保全・整備をしています。

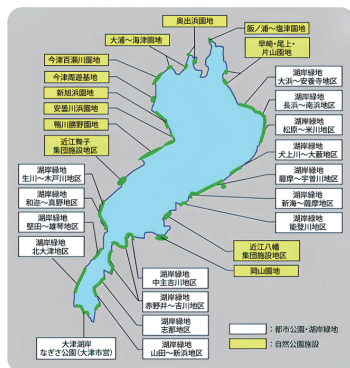


図2-12-1 都市公園・湖岸緑地
及び自然公園施設位置図

2. 自然公園

琵琶湖とその周辺は、近江八景あるいは琵琶湖八景に代表される風光明媚な景勝地として古くから親しまれており、伊吹山や比良山地、比叡山を含む琵琶湖国定公園は1950年に、わが国で初めての国定公園に指定されています。

これにより、建築物の建設や木竹の伐採、土地の形状変更などの開発行為が規制され、優れた風景を保護しています。また、この自然公園区域内では、県民をはじめとする多くの方々が琵琶湖の自然と風景を身近に親しめるための園地や遊歩道などの「自然公園施設」が湖北、湖西および湖東地域の琵琶湖岸に整備されています。また、大津市の近江舞子から近江八幡市の近江八幡集団施設地区まで、白砂青松、岩礁、ヨシ群落などの琵琶湖らしい風景が楽しめる「近江湖の辺の道(環びわ湖周遊自然歩道)」が整備されています。

自然環境保全課・都市計画課